

## テーマプロジェクト研究

2024 年度

指導教員: 鈴木竜太 梶原武久

### 1. 授業のテーマと目標

この授業では、ケースプロジェクト研究で学んだグループ研究を遂行するノウハウを基に、学生が自己組織化するチームにおいて、企業経営にインパクトのある課題を自主的に選定し、多角的に検討し、プレゼンテーションするということを実践します。ケースプロジェクト研究では、テーマやチーム構成を指導教員が設定したのに対して、この授業では、学生自身が自らチームを編成し、テーマと問いとケースを発見し、自ら歩みを進めていくことになります。他方で、異業種或いは異なった経験を持つ同期生とのグループ学習、経営者等とのインタビューを通じて、グループダイナミクス、論理的構成力、文章力、発表能力についても研鑽することを目指す点においては、ケースプロジェクト研究と同じ目的を持っています。

プロジェクト方式の教育として、1年次前期にケースプロジェクト研究、後期にこのテーマプロジェクト研究、それと並行して、専門職学位論文作成に係る現代経営学演習を行い、2年次前期には、専門職学位論文の作成に専念することとなります。この一連の research-based education を通じて、企業の中核的人材が持つべき事業観、人間観、洞察力、行動力、企業家精神を自発的に学習していただきます。

### 2. 教科書、参考書

特に必読文献は設定しませんが、ケース分析にはさまざまな方法や考え方がありますので、色々と読んでみることをおすすめします。特にお勧めするものを、以下に挙げておきます。

- 井上達彦「ブラックスワンの経営学」NTT 出版
- 神戸大学専門職大学院「ブレ MBA の知的武装」中央経済社
- 佐藤郁也「ビジネス・リサーチ」東洋経済新報社
- 高橋広之他「ケースで学ぶケーススタディ」同文館出版
- 田村正紀「経営事例の質的比較分析:スモールデータで因果を探る」白桃書房
- 田村正紀「経営事例の物語分析:企業盛衰のダイナミクスとつかむ」白桃書房
- ロバート・K・イン「新装版ケース・スタディの方法(第2版)」千倉書房

### 3. 授業内容の要旨と授業計画

2024 年度のスケジュールは、おおよそ以下のようになります。

8/10 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト 1 オリエンテーション

8/31 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト 2

研究テーマ、研究課題の発表

10/19 (Sat) 8:50-20:20 テーマプロジェクト 3~8

中間報告会

11/16 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト 9

中間報告会を受けてのセッション、リカバリープランの作成

12/21 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト 10

最終報告前の最後の授業、最終報告に向けた最終調整

1/11 (Sat) 8:50-18:30 テーマプロジェクト 11~15

研究成果発表会

#### 4. 成績評価の方法

1月11日に予定している研究成果発表と、その後に提出していただくチームワーク及び研究内容についての内省レポートの内容を評価します。ウェイトは、研究成果発表が50%、内省レポートが50%になります。個人内省レポートの提出期限および形式は以下の通りです。

---

提出期限: 1/31 (Fri) 15:00 時厳守

提出方法: Beef+による提出

形式: PDF形式、名前・学籍番号・チーム名を明記すること。分量は問いません

---

#### 5. テーマプロジェクト研究で要求すること

この授業は、6人を目安に自己編成されるプロジェクトチームによって、進めていくこととなります。チームの人数は、5人或いは7人でも可とします。

プロジェクトを進めていく過程で、必ず、研究課題 (research questions: RQ) の設定を経て、現実の組織における経験的な検討を通じて、それに一定の解を提示していただくこととなります。ここでいう研究課題 (RQ) とは、研究で明らかにする問いを指しており、単に、「現状がどうなっているか」といったように単に現状を報告するだけの研究は好ましくなく、「なぜ」「いかに」といった問いを提示し、それに対して答えていただきたいと思えます。また、「そういう調査が過去にないから、それをやる」というような、研究のための研究ではなく、企業経営にインパクトのある課題を設定することも重要となります。さらには、みなさんが職務上直面している「課題」を持ち寄って、この授業の参加者が一緒になって考えることを目標としていますので、当然ながら、チームメンバーにとって全く事前知識のない

課題を設定することは、相応しくなく、結果的に最終的な達成度も低くなると考えられます。

課題を設定したり、実際のケースを理解したりするにあたって、その研究課題に関連する主要文献(論文・書籍)を3つ以上特定し、参考にしていただきます。また課題に対する解を導出するために、単に理論的/思弁的に考えるだけでなく、必ず2つ以上の企業について、インタビューを中心としたケーススタディを行っていただきます。最終報告での論証には、インタビュー結果の他に、例えば(すでに誰かがによって収集された)2次データ、既存研究なども「武器」として使用していただくこととなりますが、説得力のある議論を展開するためにはやはり、ケース自体にある程度語らせることが必要となります。先行研究をもとに仮説を設定し、それを支持するような都合の良いケースを見つけてきて、仮説の正しさを主張するような調査であれば、時間をかけてやる意味はありません。むしろ、先行研究や通説を十分理解した上で、それらを覆すようなケースを選定し、その一見非合理とも思えるような因果関係を深掘りしていただくことを期待します。その実務に潜む「もう一つの」「新しい」論理を探り出してほしいと思っています。

プロジェクトの途中で、中間発表を行っていただきます。中間発表までには、具体的なケースを特定し、少なくとも一回は、その組織でのインタビューを行なってください。最終発表においては、担当教員以外の教員及びシニアフェローが、審査委員となります。チームメンバーにとっての意義を示すことももちろん重要ですが、初見の聴衆の関心を呼ぶような議論の展開、プレゼンテーションを心がけてください。テーマプロジェクト研究は、ケーススタディですので、(もちろん重要ですが、優先順位ということ言えば)厳密さよりは、説得力と論理性が求められることとなります。

## 6. 授業内容

### Day1 8/10 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト1 [主担当: 鈴木]

初回となるこの授業では、全体のオリエンテーションを行います。講義内容や評価方法の説明、進め方についてのレクチャはもちろん、研究計画の立て方やケーススタディの方法などについても、レクチャを行います。この日の授業中に、チーム編成と暫定的なもので良いので研究課題を決定していただきます。

(8/10 Individuals and Groups 内にてテーマプロジェクトの時間を確保)

### Day2 8/31 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト2 [主担当: 鈴木]

各チームに研究テーマと研究課題について発表してもらいます。授業時間内には簡単なコメントしかできませんが、各チームがどのようなテーマを取り上げたのか、お互いで確認し、自分たちのプロジェクトのスタート地点をしっかりと定めていきましょう。研究テーマと研究課題に関してプレゼン資料を作成してきてください。チーム毎に、研究テーマ、研究課題、切り口と考えている点とそれに関わる理論/概念/フレームワーク、ケース企業名を2

ページ程度で記述したものを提出し、発表していただきます。プレゼンの持ち時間は各チームおよそ5分です。研究テーマと中心に置く研究課題がなぜ意義があり、興味深いのか、クリティカルであるのかを意識しながら、自分たちのテーマプロジェクトのテーマの良さや面白さがわかるようにプレゼンしてください。

#### Day3 10/19 (Sat) 8:50-20:20 テーマプロジェクト 3~8 [主担当: 鈴木・梶原]

中間報告をしてもらいます。少なくとも一社に対して、一回のインタビューを終えた上で臨んでください。中間報告では、研究テーマと研究課題に基づきケースから分かってきたことと今後の計画について発表してください。発表時間は20分以内とします。報告に先立って、10/13 (Sun) までに報告資料を Beef+ 上の指定の場所にアップしてください。

なお、中間報告会終了後、中間報告の結果を受けて、各チームでバックアッププランを検討し、11/3 (Sun) までに Beef+ 上の指定の場所にファイルをアップしてください。

(10/26, 11/2, 11/9 に Controlling and Reporting あり)

→特別にテーマプロジェクトのための時間を設けることはしませんが、講義の前後のタイミングで、各チームからの相談を受け付けるようにします。

#### Day4 11/16 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト 9 [主担当: 梶原]

各チームのバックアッププランを受けて、必要があれば、全体に向けてフィードバックと質疑の時間を設けます。必要がないと判断した場合は、各チームで自由に使うことができます。

(11/23, 11/30, 12/14 に Controlling and Reporting あり)

→特別にテーマプロジェクトのための時間を設けることはしませんが、講義の前後のタイミングで、各チームからの相談を受け付けるようにします。

#### Day5 12/21 (Sat) 18:50-20:20 テーマプロジェクト 10 [主担当: 梶原]

最終報告前の最後の授業になります。各チーム、12/15 (Sun) までに指定の場所に、最終的な研究テーマ、研究課題、すべてのケースの概要、結論、含意について、4ページ以内で記述しファイルをアップしてください。この日の授業時間自体は、各チームで自由に使うことができます。個別に相談が必要であれば、教員にメールでアポを取るようしてください。

#### Day6 1/11 (Sat) 8:50-18:30 テーマプロジェクト 11~15 [主担当: 梶原・鈴木]

研究成果発表会を行います。発表時間は20分とします。報告資料の提出方法については追って指示します。

以上